

取組分野 **【自然環境】**

目指す環境ビジョン：**きれいな水が巡り、ホタルが飛び交う、自然とふれあえるまち**

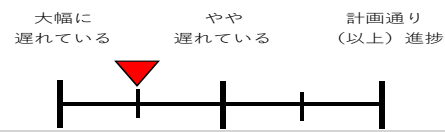
指標区分	項目名 (数値の出所等)	単位	H26年 2014年	H27年 2015年	H28年 2016年	H29年 2017年	H30年 2018年	目標値 令和7年 2025年	達成 状況	進捗状況
成果 指標	環境基準（河川）達成率 (市実施の河川水質調査の結果。 守山川上下流と野洲川右岸水路。)	%	27.0	87.0	20.0	40.0	80.0	100.0	○	・数値変動が激しいが改善傾向を示す。 ・野洲川右岸放水路は基準項目が未達となる場合が多く、全体の達成率の低下要因となっている。
	赤野井湾水質状況 (滋賀県環境白書の数値。 旧杉江沖の調査結果。)	mg/ℓ	COD: 4.5 T-N: 0.8 T-P: 0.069	COD: 4.5 T-N: 0.7 T-P: 0.06	COD: 4.8 T-N: 0.67 T-P: 0.068	COD: 4.78 T-N: 0.67 T-P: 0.068	COD: 4.05 T-N: 1.00 T-P: 0.080	COD: 4.6 T-N: 0.24 T-P: 0.012	△	・CODは目標値付近の推移、窒素・リンは基準未達成が続いている。
	ホタル飛翔数（ピーク時） (NPO法人びわこ豊稔の郷の 飛翔調査結果。最大飛翔数の和。)	頭	3,474	3,130	2,763	2,767	2,545	5,000	×	・ホタルの飛翔数は減少傾向が続いている。 ・異常気象の影響や開発に伴う河川環境の変化等、複合的な要因が考えられる。
	ホタル飛翔箇所数 (NPO法人びわこ豊稔の郷の 飛翔調査結果。飛翔のあった箇所数。)	箇所	52	64	62	62	60	75	△	・平成27年度には飛翔箇所数が増えているが、近年は減少傾向となっている。
	守山の川や池などに親しみを感じている市民の割合 (総合計画市民アンケート)	%	50.7	—	—	—	54.2	60.0	○	・親水性のある遊歩道の整備や公園の維持管理などを行った結果、親しみを感じている人の割合が5年間で3.5%増加している。
	赤野井湾でのニゴロブナ漁獲量 (玉津・小津漁業協同組合の 毎年のニゴロブナ漁獲量)	kg	314.3	206.2	191.8	266.5	231.6	900.0	×	・外来魚駆除や「ゆりかご水田事業」等の施策は実施しているものの、減少傾向が続いている。
活動 指標	赤野井湾流入河川水質状況 (守山市環境調査報告書の 赤野井湾流入主要河川汚濁負荷量)	mg/ℓ	BOD: 1.88 SS: 10.58 DO: 10.07	BOD: 1.49 SS: 5.67 DO: 9.64	BOD: 1.93 SS: 8.12 DO: 10.24	BOD: 1.79 SS: 5.07 DO: 9.79	BOD: 1.37 SS: 6.19 DO: 10.15	BOD: 2以下 SS: 25以下 DO: 7.5以上	◎	・平成30年度（2018年度）まで、すべての数値において基準値を達成している。
	大川水質状況 (市で実施する大川水質調査の結果。 年3回実施の平均値。)	mg/ℓ	BOD: 2.7 SS: 7.9 DO: 7.4	BOD: 3.2 SS: 11.5 DO: 9.4	BOD: 7.7 SS: 12.3 DO: 10.0	BOD: 3.3 SS: 15.0 DO: 5.8	BOD: 9.0 SS: 16.2 DO: 6.5	BOD: 2以下 SS: 25以下 DO: 7.5以上	△	・BODは目標未達の状況が続いている。 ・SSは継続して達成している。 ・DOは近年は未達成が続いている。
	狂犬病予防注射率 (狂犬病予防注射頭数÷守山市の犬の登録頭数)	%	73.0	73.7	74.2	73.7	72.0	78.0	△	・70%前半の数値で横ばいに推移し、目標未達が続いている。

【備考】

【達成状況欄の表記について】

◎ = 計画以上の状況 ○ = 計画通り
△ = やや遅れている × = 大幅に遅れている

【総合評価の結果】



【総合的な意見・評価・提言等】

全体的な達成状況について、△や×が目立ち、遅れている進捗にある。「ほたるの飛翔箇所数」や「赤野井湾でのニゴロブナ漁獲量」は現状の進捗では達成が困難な状況にある。また、河川水質に関する調査項目の進捗は順調であるが、赤野井湾の水質改善には至っていない。目指す環境ビジョンで掲げた「ホタルが飛び交う」からは、遠のいている状況にあり原因究明と状況改善が求められる。

取組分野 **【まち環境】**

目指す環境ビジョン：限りある資源を効率的に使い、環境にも経済にも生活にも優しい緑あふれるまち

指標区分	項目名 (数値の出所等)	単位	H26年 2014年	H27年 2015年	H28年 2016年	H29年 2017年	H30年 2018年	目標値 令和7年 2025年	達成 状況	進捗状況
成果指標	一人一日あたりのごみ排出量 (一般廃棄物(ごみ)処理基本計画より 年間総ごみ量÷人口÷365日)	g	825.0	826.0	802.0	787.0	789.0	791.7	◎	・市民への周知・啓発により着実に減少しており、目標値を上回っている。
	年間の事業系ごみ排出量 (一般廃棄物(ごみ)処理基本計画より)	t	6,608	6,905	6,715	6,413	6,575	6,027	○	・自然災害を原因として事業系ごみが増加する年もあったが、減少傾向で推移している。
	ごみの再資源化率 (一般廃棄物(ごみ)処理基本計画より 資源ごみの総重量÷ごみの総重量)	%	27.0	26.5	26.3	25.7	25.3	35.8	×	・年々低下傾向にある。 ・新聞購読者数の減少のほか、資源持ち去りや事業者による回収の可能性が推測される。
	守山市の街並みや自然の風景は調和がとれている (総合計画市民アンケート)	%	37.7	—	—	—	52.6	60.0	○	・守山まるごと活性化プランや、農村まるごと保全対策等を実施しており、5年間で約15%増加している。
	環境基準(大気)達成率 (市実施の大気環境調査の結果。 県の大気自動測定局の調査結果。)	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	○	・過去より継続して基準値を達成している。
活動指標	家庭や職場でごみを減らす取組をしている割合 (総合計画市民アンケート)	%	69.3	—	—	—	62.2	80.0	△	・減量化に向けた市民講座や生ごみ処理器への補助事業等を実施しているが、5年間で約7%減少している。
	廃食油回収自治会数 (廃食油回収場を設置している自治会数)	自治会	37.0	37.0	37.0	39.0	39.0	全自治会	△	・回収に伴う作業や集積所の維持管理の負担増があるが、少しずつ自治会数が増加している。
	水洗化率 (下水道を整備した区域内の人口のうち、 実際に接続を行った人口の割合)	%	96.6	96.7	96.9	97.0	97.1	97.5	○	・毎年着実に増えており、目標達成に近づいている。
	市街地の緑地率 (緑の基本計画より)	%	12.7	12.7	12.7	12.7	12.7	15.0	△	・変動なし。
	市民一人あたりの都市公園面積 (守山市の都市公園面積÷総人口)	m ²	11.6	13.3	13.3	13.2	13.1	15.0	△	・人口の増加などの要因により、1人当たりの面積では減少している。
	改善が必要な空き地のうち、指導等により改善された率 (改善が必要な空き地件数÷除草実施済み件数)	%	83	75	81	77	64	100	△	・改善された率としては減少傾向であるも、長年放置され、管理されていなかった懸念事項の空き地も改善している状況にある。
	公害防止協定締結企業数 (守山市の生活環境を保全する条例第68条に基づく 公害防止協定を締結している企業数)	件	59	62	63	65	65	80	○	・新規の誘致工場等と締結することができた結果、着実に増えている。

【備考】

【達成状況欄の表記について】

◎ = 計画以上の状況 ○ = 計画通り
△ = やや遅れている × = 大幅に遅れている

【総合評価の結果】



【総合的な意見・評価・提言等】

全体的な達成状況について、○や△が多く、やや遅れている進捗にある。成果指標において、ごみの排出量など市民の協力が必要とする項目は順調に推移しており、「家庭や職場でごみを減らす取組をしている割合」のアンケート結果からは、ごみ減量化への市民の意識の高さが表れている。一方、活動指標については、緑地率や公園面積など変化が少ない項目が多い状況にある。目指す環境ビジョンで掲げた「資源を効率的に使う」ことに向けた、市民のごみ削減などの意識は一定高まっていると評価できる。

取組分野 **【地球環境】**

目指す環境ビジョン：地球規模の環境問題の解決に積極的に取り組む先進的なまち

指標区分	項目名 (数値の出所等)	単位	H26年 2014年	H27年 2015年	H28年 2016年	H29年 2017年	H30年 2018年	目標値 令和7年 2025年	達成 状況	進捗状況
成果指標	移動において徒歩・自転車・バス等で 快適な移動ができる市民の割合 (総合計画市民アンケート)	%	34.9	—	—	—	33.1	50.0	△	・高齢者の移動支援制度の見直しや、自転車・歩行者用歩道の整備などを行ったが、5年間で1.7%減少している。
活動指標	家庭や職場の地球温暖化対策実施率 (総合計画市民アンケート)	%	53.3	—	—	—	48.3	70.0	△	・啓発活動や学習会の開催等を実施するも、5年間で5%減少している。
	太陽光発電システム設置件数 (2015年度までは関西電力提供データを使用。 以降は資源エネルギー庁の認定件数を使用)	件	2581 〔2,597〕	2954 〔2,984〕	— 〔3,233〕	— 〔3,371〕	— 〔3,644〕	7,500	△	・増え幅は減少傾向だが、設置件数は伸びている。 ・売電価格が年々下がるなど、太陽光発電システムにかかる施策等の動向が関係していると推測される。
	バスの一日平均乗降客数 (近江バス及び江若バスに直接聞き取り)	人/日	3,343	3,577	3,602	3,765	5,221	3,900	◎	・2018年度において、高齢者向けバスや学生定期券における料金等の制度等見直しにより利用者が大幅に伸びている。
	もーりーカー利用者数 (地域振興・交通政策課にて利用者数を管理)	人	3,494	3,543	4,666	6,675	6,605	3,800	◎	・ルートの増加や利用者の登録要件の緩和など、利用しやすい制度づくりにより利用者が大幅に伸びている。

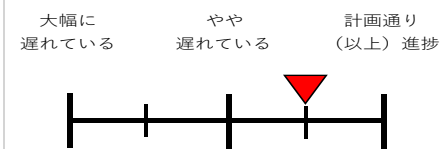
【備考】

「移動において徒歩・自転車・バス等で快適な移動ができる市民の割合」の結果は目標値を下回りますが、「バスの一日平均乗降客数」や「もーりーカーの利用者数について」の結果は、移動手段における施策などにより順調に伸びています。

【達成状況欄の表記について】

◎ = 計画以上の状況 ○ = 計画通り
△ = やや遅れている × = 大幅に遅れている

【総合評価の結果】

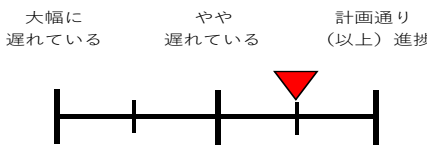


【総合的な意見・評価・提言等】

全体的な達成状況について、交通手段における自家用車以外の利用者が当初計画を大きく上回る結果となっていることも鑑み、概ね計画通りに進捗していると評価できる。また、目指す環境ビジョンに掲げた「環境問題の解決」に向けた、バスや自転車などを利用するための施策が反映され、市民にとって受け入れやすいものであることが推察ができる。一方、温暖化対策実施率や太陽光発電システムの設置件数など、再生可能エネルギーの普及推進の項目はやや遅れている進捗にある。

取組分野【ともに創る】

目指す環境ビジョン：市民・事業者・行政が率先して取り組む守山らしい環境先端都市

指標区分	項目名 (数値の出所等)	単位	H26年 2014年	H27年 2015年	H28年 2016年	H29年 2017年	H30年 2018年	目標値 令和7年 2025年	達成 状況	進捗状況
成果指標	自治会・職場等にて清掃等環境美化活動へ参加した市民の割合 (総合計画市民アンケート)	%	70.0	—	—	—	66.9	80.0	△	・湖岸での清掃活動の実施や、自治会での清掃活動を支援しているが、5年間で約3%減少している。
活動指標	美崎公園での環境学習会参加者数 (美崎公園からの報告者数 所管課：建設管理課)	人	1,950	3,049	3,107	2,801	1,802	2,300	○	・2018年度は、自然災害の影響により環境学習会の中止期間があったため、参加者数は減少しているが、各年で目標値を達成。
	ほたるの森資料館での環境学習会参加者数 (ほたるの森資料館からの報告者数 所管課：環境政策課)	人	1,000	1,289	1,307	1,099	1,328	1,300	○	・大規模団体の研修の有無で変動はあるが、概ね目標達成。
	環境学習（啓発）実施自治会 (「わ」で輝く自治会応援報償事業実績)	自治会	49	49	54	46	57	全自治会	△	・年度によりばらつきはあるも増加傾向にある。
【備考】										
【達成状況欄の表記について】 ◎ = 計画以上の状況 ○ = 計画通り △ = やや遅れている × = 大幅に遅れている			【総合評価の結果】 大幅に遅れている やや遅れている 計画通り(以上)進捗 				【総合的な意見・評価・提言等】 全体的な達成状況について、○や△とばらつきはあるも、市民・事業者を含めた環境学習の参加者は一定数あることから、概ね計画通りに進捗していると評価できる。また、目指す環境ビジョンで掲げた「ともに創る」を実現するため、今後、環境センターの交流拠点施設の活用も含め、市民・事業者・行政が環境学習や環境美化活動などへ率先して参加できる取り組みを継続して考えていく必要がある。			